

3

国際機関による放射線健康リスク評価 ならびに防護基準策定における 原爆放射線の健康影響調査結果の活用

広島・長崎において長期間継続実施されてきた原爆被爆者における原爆放射線の健康影響に関する調査研究は、国際機関における放射線被曝の健康リスク評価において多くの貢献をしてきた。特に、原子放射線の影響に関する国連科学委員会(UNSCEAR)において放射線健康リスクに関する情報源として中心的な役割を果たし続けてきた。それは、放射線防護基準の基礎データを提供している世界中の調査研究の中でも、原爆被爆者の調査は最も長期にわたるものであり、かつ最も広い範囲を扱っていて信頼性が高いからである。UNSCEARは、すべての“線源”(平和目的や軍事目的で使用される人工放射線、ならびに自然放射線)による被曝のレベルと、“影響”(人における身体的・遺伝的影響と環境影響)について全世界から得られたデータを詳細に調査し、その結果を科学的に取りまとめて評価し、国連総会に報告してきた。UNSCEARはまた、適宜詳細な報告書を刊行しており、2011年5月の時点で合計20の主な報告書が刊行されている。最近では『UNSCEAR 2006年報告書』のうち、「放射線とがんについての疫学研究」(附属書A)および「心血管疾患と非がん疾患に関する疫学研究」(附属書B)ならびに「放射線の免疫系への影響」(附属書D)において、原爆被爆者における原爆放射線の健康影響調査の結果が重要な役割を担った。

このUNSCEARにおけるリスク評価は、国際放射線防護委員会(ICRP)や国際原子力機関(IAEA)などにおける放射線作業従事者や一般市民の放射線防護基準策定において科学的基盤を提供してきた。

今後、原爆被爆者における原爆放射線の健康影響調査から、若年齢で被曝した人々のリスク評価について、更なる情報が提供されると予想され、本調査の重要性は更に増していくと考えられる。